

分科会要旨

分科会 A

【テーマ】「診療ガイドラインの最新動向と作成支援」

【要 旨】

Evidence-Based Medicine : EBM の普及に伴い日本では 1999 年より患者数の多い 23 疾患につき、厚生科学研究費補助金による研究班を設置し、EBM に基づく診療ガイドラインの作成が開始された。その後も主として各学会の努力により診療ガイドラインが作成・改訂されている。日本医学図書館協会では、複数学会からの依頼を契機として、社会貢献、財政への寄与および会員の資質向上のため、診療ガイドライン作成支援のための文献検索業務を 2008 年度より受託事業として開始した。本分科会ではこうした背景を踏まえ、以下の内容で構成する。最初に吉田雅博氏に EBM に基づく診療ガイドラインの最新動向と Minds の活動につき解説いただく。次に日本乳癌学会診療ガイドライン委員長である向井博文氏に日本乳癌学会におけるガイドライン作成の取り組みにつきご報告いただく。三番目に診療ガイドラインワーキンググループ委員である谷口今日子氏にこれまでの経験をご報告いただく。最後に参加者との自由討議を行う予定である。

【座 長】

正会員個人会員

山口 直比古

【話題提供者】

国際医療福祉大学化学療法研究所附属病院人工透析センター・一般外科／

日本医療機能評価機構 EBM 医療情報部

吉田 雅博

国立がん研究センター東病院乳腺・腫瘍内科

向井 博文

富山大学中央図書館

谷口 今日子

【コーディネーター】

聖路加国際メディカルセンター教育・研究センター医学図書館 河合 富士美

【運営・サポート】

病院部会幹事

分科会B

【テーマ】「患者さんへの医療・健康情報の提供」

【要 旨】

医療系図書館において患者さん、ご家族は長い間サービスの対象外とされてきました。1990年代の医療法改正や病院機能評価の導入などの社会的な変化を経て、患者さんへ情報提供を行う医療機関は2000年代に入って急激にその数を伸ばしました。また、開設に向けて準備されているところも少なくありません。

各病院で提供されているサービスの内容は、バラエティに富んでいます。必ずしも我々医療系図書館員が運営に関与しているとは限らず、関与しているとしてもその度合いは様々です。看護師さんなどの医療職、ボランティア、地域の公共図書館と一緒に運営を行っている例があります。「患者図書室は看護師やボランティアがいればよくて、司書が常駐する必要があるのか？」と言った疑問が医療職側あるいは図書館側からあがっています。蔵書についていえば、予算が潤沢なところもあれば、寄贈書でやりくりしているところもあります。その他、検索ツールは何を備えるのか、もっと居心地の良い場所にできないか、他部署との連携の仕方など、開設してからも課題は続きます。

日々のサービスでは、医学部や病院の教職員・学生とは違う対応が求められます。「どんな質問をされるのか」と不安になる方が多いことと思います。規模の小さな蔵書の中から提供できる情報を見つけ出したり、インターネット上の適切な情報源を把握したりしておくことも必要です。また更に、患者さんとのコミュニケーションに工夫が要することもあるでしょう。

これからサービスを始める方々は、すでに患者図書室を運営されている方々に聞いてみたいことがたくさんあるのではないのでしょうか。またこの分科会では、医療系図書館と地域で患者さん、ご家族を支えている公共図書館の出会いも期待できます(今年の分科会で実際にありました)。

患者図書室を運営している方々、これから始める方々、公共図書館の方々が集い、情報交換のできる分科会にしたいと思います。

【座 長 (進行)】

愛知医科大学医学情報センター(図書館)

市川 美智子

【話題提供者】

東邦大学医療センター大森病院からだのとしよしつ

押田 いく子

河北総合病院 健康生活支援室

石川 晶子

〃

荒井 奈保子

川崎市教育委員会 生涯学習推進課

舟田 彰

【コーディネーター】

東邦大学医学メディアセンター

牛澤 典子

分科会 C 1

【テーマ】「研修手段としてのe-Learning導入の可能性を検証する（教育学習支援Part I）」

【要 旨】

NPO法人日本医学図書館協会（JMLA）、日本薬学図書館協議会（JPLA）の教育・研究委員会では、研修手段の1つとして、かねてよりe-Learningに着目してきました。ネットワークで提供されるe-Learningの導入で、必要なコンテンツを何時でも、何処でも勉強でき、加えて対面式の研修では不可能な、繰り返しや部分的な視聴も可能となります。また従来の研修で課題となっていた、開催日時・開催地や職場の事情・身分等の都合で、研修に参加できない場合の代替手段として、e-Learningの導入が強く求められていました。

以上のような理由から、JMLA、JPLAの教育・研究委員会では、e-Learningの重要性を十分認識したうえで検討を重ねてきましたが、以下のような問題・課題を解決できぬまま、長い間、具体的なe-Learningの導入は留保されていました。

- ①JMLA、JPLAの研修で必要とされるe-Learningコンテンツが提供できるか
- ②e-Learning導入にかかる初期費用、システムやコンテンツ費用を負担できるか
- ③個人の資質に大きく依存するe-Learningで十分な研修効果が見込めるか
- ④教育・研究委員会の委員が担う負担が、今以上に増える恐れはないか

今回開催するJMLA総会分科会では、e-Learningを積極的に導入している、独立行政法人科学技術振興機構、NPO法人医療教育研究所から講師を迎え、e-Learning導入の実際を紹介していただき、コンテンツ制作、利用評価、必要経費、コストパフォーマンス等の視点から、JMLA、JPLAの研修手段としてのe-Learning導入の可能性を探りたいと思います。

【座 長】

東邦大学習志野メディアセンター

谷澤 滋生

【話題提供者】

独立行政法人 科学技術振興機構 知識基盤情報部

原島 正美

NPO法人 医療教育研究所 学術部長

伊藤 要一

【コーディネーター】

東邦大学習志野メディアセンター

谷澤 滋生

分科会C2

【テーマ】「医療関連学部生のための教育学習支援（教育学習支援 Part II）」

【要 旨】

ラーニングコモンズや情報リテラシー教育、授業と連携したサービス等、大学図書館における学生の教育学習支援の事例発表が盛んである。しかしながら、臨床実習や国家試験を控えた医学部や医療関連学部における特有の教育制度に即したサービスについて、体系的な議論がなされてきたとは言えない。そこで、医学および医療関連学部をもつキャンパスの図書館における教育学習支援サービスのあり方について多面的な話題提供をいただき、学部や他部署も含めたキャンパス全体の事情も鑑み、誰がどのような支援をすることが教育パフォーマンスの向上に役立つのか、議論をしていきたい。

1. 「医科大学図書館が学生に対して実施している授業の実態調査」

全国の医学部を持つ大学80大学の図書館に対して実施した調査（平成22年12月）の結果を報告する。調査の対象となる内容は、オリエンテーションと、図書館員が関わる授業（学科関連指導及び学科統合指導）である。

2. 「スタディライフ調査にみる学部生の学習場所」

慶應義塾大学信濃町メディアセンターでは、近年多様化する利用者像の把握や館内外に新たに設置された学習スペースの充足度を把握するために、スタディライフ調査を実施した。調査から導かれた学部生のための教育学習支援の方向性について報告する。

3. 「Learning space renovation of Medical libraries : A case for Yonsei University」

「医学図書館における学習スペースの改装：延世大学原州医学図書館の事例」

図書館における電子リソースの台頭に伴い、印刷版雑誌の購読数は減少してきた。書架は空きが目立ち、来館者数は減少している。これらの問題を解消するために、延世大学原州医学図書館では、快適な学習空間づくりを目指し利用者スペースの改装を行った。空き書架に代わり新設されたウェブアクセスエリア、セミナールーム、AV ルーム、休憩室などが多くの来館者を引き付けている。

【座 長】

慶應義塾大学文学部図書館・情報学専攻・協会理事

酒井 由紀子

【話題提供者】

1. 京都府立医科大学附属図書館

山下 ユミ

2. 慶應義塾大学信濃町メディアセンター

園原 麻里

3. 延世大 原州医学図書館

金 柱石

(Kim Ju-Seog, Yonsei University Wonju Medical Library)

【コーディネーター】

慶應義塾大学文学部図書館・情報学専攻・協会理事

酒井 由紀子